

風俗画報に見る明治29年富山大洪水

村田 晶¹・安達 實²・宮島昌克³

¹正会員 金沢大学助教 理工研究域環境デザイン学系（〒920-1192 石川県金沢市角間町）

E-mail:murata@se.kanazawa-u.ac.jp

²正会員 金沢工業大学客員研究員（〒921-8501 石川県野々市市扇が丘7-1）

E-mail:adachi.makoto@ruby.plala.or.jp

³正会員 金沢大学教授 理工研究域環境デザイン学系（〒920-1192 石川県金沢市角間町）

E-mail:miyajima@se.kanazawa-u.ac.jp

北陸地方の富山県は、神通川や庄川などの大河川による洪水氾濫が多く、この憂いを除くことは古くからの為政者の最大の課題であった。明治期に入ってからその被害はなくなり、平地部の人々が増えることから被害は、大きくなるばかりであった。明治期の被害記録は、数字的なものはあっても、写真記録はなく（新聞には写真がない、もちろんテレビもない）、風俗画報による絵のみがその状況を伝えている。画報による1896（明治29）年の富山大洪水は、これまでに経験したことのない大水害となった。その状況を画報の特集号から紹介し、今後の防災教育に資したい。

Key Words : 明治期、風俗画報の絵、明治29年富山大洪水

1. 明治期の富山県の洪水

富山県には黒部川、片貝川、早月川、常願寺川、神通川、庄川、小矢部川など、大河川が多い。これらの河川は源流を急峻な日本アルプスや飛騨高地、あるいは白山系に発しているために、急流暴河が多く、融雪期や梅雨期、台風期には膨大な水量を一挙に流下させ、下流に大洪水を引き起こし、田畑や人家に惨憺たる損害を与えることが多々あった。しかし、明治期の当時土木技術が幼稚であり、経済力の貧弱な往昔にあっては、治水による安寧との念願は達せられなかった。

ここで、明治時代における主な大洪水を表-1^{1)~7)}に示す。表に示すように明治期の富山県がいかに関水害に痛めつけられてきたかがわかる。明治期では毎年1回以上大水害に襲われており、特に明治20年代から30年代にかけては、1年に3回も4回も水害に見舞われた年もあった。ことに表-2に示す県都富山市の神通川氾濫による被害は特に甚大で、明治29年7月21日の洪水

では富山市内90町のうち、4分の3以上の69町において家屋が浸水した。

当時の悲惨な状態を「富山市史」から取り出してみると、「明治二十九年七月二十一日、連日雨が降り続き、市民は水害を恐れていた。・・・雨量は多く、十九日午後から神通川が急に増水し市内へ浸水した。この日午前七時には一丈四尺の最高水位となった。市西部が最もひどく、浸水が天井に達しそうになり、みな屋根を破ってようやく避難したが、溺死したものもいた。十時頃になって減水し、二十三日全く水跡を絶った。この水害は

表-1 富山県下 主な水害の発生件数

明治	1~10年	14件
	11~20	8
	21~25	8
	26~30	15
	31~35	6
	36~40	5
	41~45	4

表一 2 洪水被害（浸水家屋5, 000戸以上）

年月（明治）	水系	浸水家屋（戸）
23年7月	神通川	5540
24年7月	県下全域	7596
28年7月	神通川	5732
29年7月	同	6950
30年7月	同	5400
32年9月	県下全域	5677

古来絶無の大洪水というべきで溺死二名、負傷三名、家屋流失十戸、家屋全壊六戸、家屋半壊二十四戸、仏閣一棟、浸水家屋床上浸水五九三二戸、床下浸水一〇一八戸の合計六九五〇戸、橋梁流失十九、堤防決壊二百二十八間・破壊百間であったといわれる。・・・」

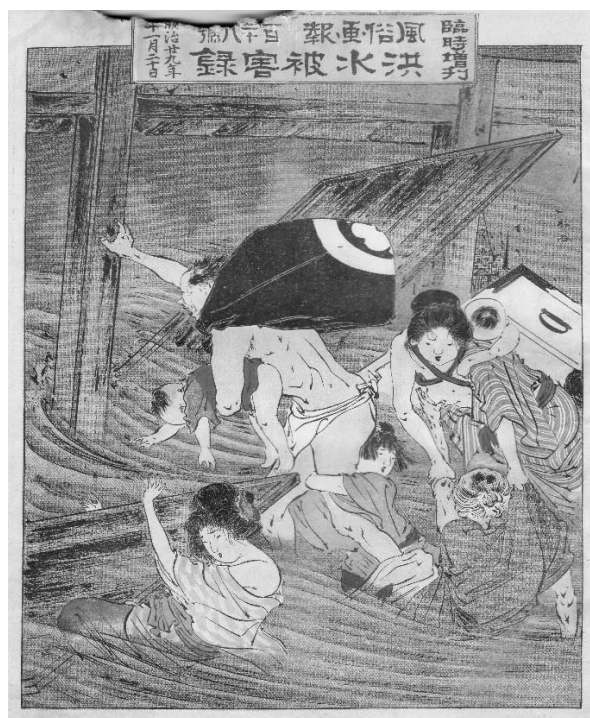
大洪水被害の後、その応急対策としての破損堤防の復旧や、部分的な改修工事が行われている^{1)～13)}。

2. 風俗画報の絵による水害被害の状況

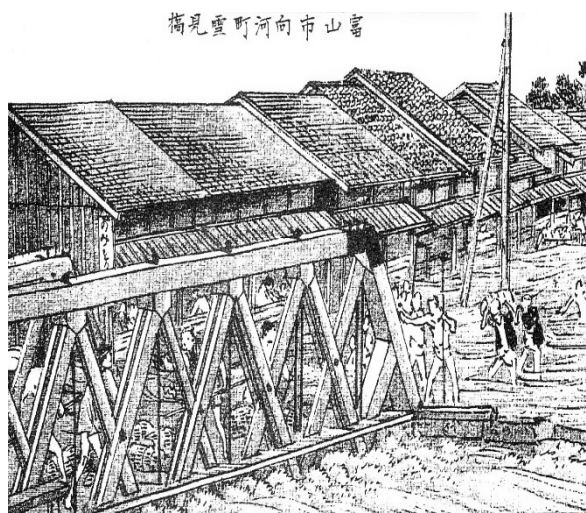
明治の文明開化後、印刷技術が導入され、活字に触れることはできたが、明治20年代の新聞は、まだ活字のみであり、今日のような写真はあまりなかった。欧米文化の影響の下に「画報」を名のる雑誌が登場したのは、明治22年に創刊の「風俗画報」からであろう。月刊の「風俗画報」は、博覧会・災害などに際して頻繁に臨時特集号を刊行して、売れ行きを伸ばした。特に1896（明治29）年11月発行の「画報128号臨時増刊洪水被害録」¹⁴⁾の富山県下における水害真景は、多くの人々に絵図による水害の情報を与え、その反響は大きかった。しかし明治後半よりこれまでの画筆者による石版画が、だんだんと写真版になり、大正5年に「風俗画報」は廃刊になった。絵画を重視した「風俗画報」はわが国グラフ雑誌の先駆けであり、近年完全復刻がされたことは、明治時代を知ることの重要性が増しているものと思われる。

今回は「画報128号臨時増刊 洪水被害録」から明治29年富山県内の洪水水害の数点を取り出し紹介する。現在はテレビで、生々しい実況をみることができるが、明治の絵には今日のテレビにはない臨場感を得ることできるようである。なお地名は画報のままとした。図に示すように、当然発災後に現地住民からヒアリングした内容を絵師が絵にしているため、住民と絵師によるバイア

スがかかっている。しかしながら、それぞれが印象に残ることが強調されている、とも言える。図一2に示すように越流している状況が分かる。水深はそれほど深くなく、流れも比較的速くないことが人の動きで分かり、土嚢のようなもので越流を止めようと作業している状況も見える。橋梁上で多くの人が作業をしていることから、橋梁流失の危険性を感じていないことも分かる。ここで雪見橋は神通川支流のいたち川に架かる橋梁であり、江戸時代「大橋」と呼ばれる北陸道の要衝であった。いたち川も越流している状況から富山市内で短時間になかなりの雨量があったことが示唆できる。図一3～図一5になると、図一2より水深が深いことが船による救護活動で示されている。また、図一3の稻荷橋は神通川右岸より1km以上離れている神通川水系小支流に架かる橋梁であることより、絵に描かれている水量から神通川破堤による影響がかなり広範囲であったことが推定できる。図一6～図一10は庄川水系による水害の状況を絵にしたものと思われる（同日、庄川水系でも水害が発生している）が、図一6～図一8に示すように庄川の堤防状況と被害がしっかりと描かれていることが分かる。また、図一9より水位の上昇がかなり早かったこと、図一10より流速がかなり早かったことが窺える。図一11は東京朝日新聞明治29年7月26日版第一面である。写真がなく



図一 1 風俗画報128号 表紙



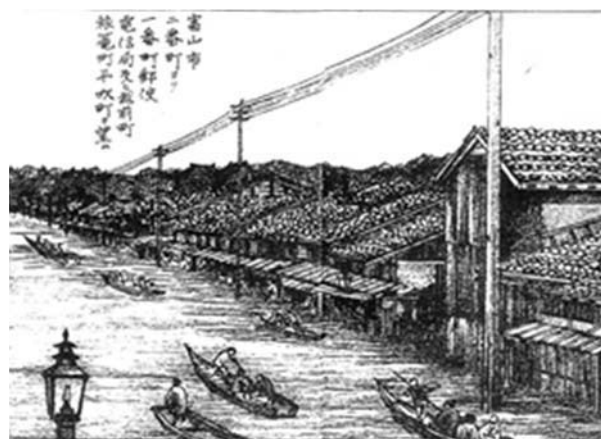
図一 2 富山市内 雪見橋



図一 3 富山市内 稻荷橋



図一 4 富山市内 県議会議事堂辺り



図一 5 富山市内 二番町辺り



図一 6 富山県 射水郡二塚村の堤防



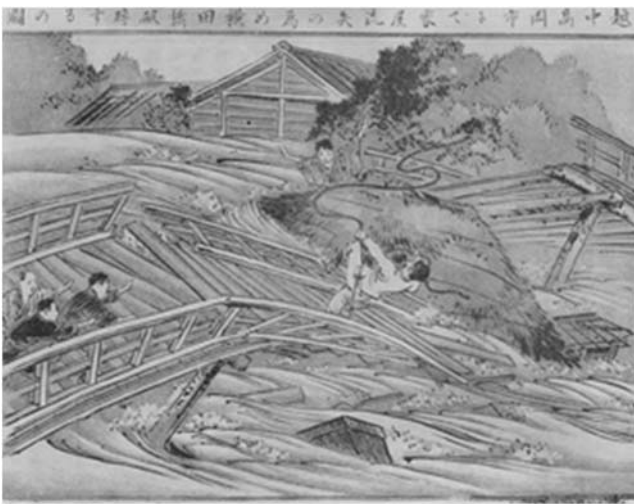
図一 7 富山県 射水郡米島村、江尻村の辺り



図一 8 富山県 高岡市中島町の惨状



図－9 越中二塚村小学校水災に遇う



図－10 越中高岡市 横田橋流失



図－11 東京朝日新聞（明治29年7月26日）¹⁵⁾

活字だけの紙面の様子であるが、7月20日～22日は東日本で水害被害が多数報告されている中で、洪水の状況が全国紙一面に掲載されていることから、水害が全国的にインパクトのある事象であったことを窺える。

3. おわりに ―風俗画報の絵から学ぶこと―

明治期に体験した洪水水害を「過去の自然災害」として語るのではなく、国や地域社会において災害から学んだ事柄を忘れずに世代を超えて、後世に伝えることが大切である。近年、雨の降り方が激甚化しており^{16)～17)}、水災害に上手に対処するため、過去の水害の歴史と、防災への基礎知識を臨機応変にて向上させ、水災害を軽減させるように心掛け、災害に備えたい。

なお明治期に発生したこれらの水害に対する施策（常願寺川の改修、立山砂防、神通川の改修＝馳越線、庄川の改修など）については、すでに筆者らが土木史研究発表会で発表済み^{18)～20)}であるのでここでは略する。

参考文献

- 1) 富山県：富山県史 通史編V近代上，pp.894-909，1981.
 - 2) 富山県：富山県史 史料編VI近代上，pp.453-506，1978.
 - 3) 富山県：越中史料巻之四，pp.700-707，1909.
 - 4) 富山市：富山市史，pp.438-449，1909.
 - 5) 富山市：富山市史通史（上巻），pp.952-977，1987.
 - 6) 富山市：富山市史通史（下巻），pp.265-280，1978.
 - 7) 富山地方気象台：富山県気象災異誌，pp.36-60，1971.
 - 8) 日本図書センター：日本災害史 3 気象，pp.176-177，2001.
 - 9) 北陸地方建設局・富山県：とやまの河川，pp.25-37，1983.
 - 10) 北陸電力企画：北陸の河川，pp.4-59，1996.
 - 11) 深井三郎：とやまの水，北日本新聞社，pp.74-94，1985.
 - 12) 土木学会中部支部編：国造りの歴史―中部の土木史，名古屋大学出版会，p.179，1988.
 - 13) 白井芳樹：とやま土木物語，富山新聞社，pp.24-139，2002.
 - 14) 東陽堂：風俗画報 第128号 臨時増刊洪水被害録，pp.35-37，1896.
 - 15) 日本図書センター：朝日新聞復刻版 明治編43，p.141，1994.
 - 16) 国土交通省：2015国土交通白書，pp.212-213，2015.
 - 17) 内閣府：平成27年防災白書，pp.120-121，2015.
 - 18) 安達實・北浦勝ほか：神通川の治水について，土木史研究第15号，pp.393-398，1995.
 - 19) 安達實・北浦勝ほか：庄川の治水について，土木史研究第16号，pp.637-644，1996.
 - 20) 安達實・北浦勝ほか：常願寺川 藩政期から明治期の治水，土木史研究第19号，pp.331-342，1999.
- その他一般的な文献として，

富山新聞社：ビジュアル富山百科（1994），富山新聞社：ふるさと富山歴史館（2001），北日本新聞社：富山大百科事典（1994），山川出版社：富山県の歴史散歩（2008）など

（2016. 4. 11 受付）